

AR246

2024年4月~6月号

# アジア レポート



アジア・アウトリーチの心

日本に派遣された宣教師 台湾から遣わされて

# アジア・アウトリーチの心

ピーター・ウー アジア・アウトリーチ・マレーシア議長

宣教地で活躍している働き人たちの誰もが、力強いあかしを持っている。彼らはその信仰のゆえに、多くの苦しみを経験している。アジア・アウトリーチは、神様の器である男女とともに協力して働く恵みをいただいている。今回は宣教地で働く働き手の一人である、ベトナム出身のモーセ・ファン師が自分のことばで書いてくれたあかしを紹介したい。これを読んでくださる皆様にとって、励ましとなることを期待している。

私はモーセ、68歳。私は伝統的な仏教の家庭に生まれ、家族と共に、多くの時間を寺院で過ごし、祈りをささげて育った。私たちは実に多くのことについて祈ったが、問題や必要に対しては一度も明確な解決を得ることはなかった。私が12歳の時に、ベトナム戦争が勃発した。戦争によって私の祖父と母、さらには下の3人の兄弟が、たった一夜にして亡くなってしまった。私の家が燃えて、家族が犠牲になってしまったのである。私自身は、背中に爆弾の破片が突き刺さったが、いのちを失うことはなかった。

戦争の最前線から帰還した父にとって、家族を失ったことは耐えきれない悲しみであった。父も私もその後数年間は、人生に喜びを見いだせず生きる目的を失っていた。家族を失ったことは、自分たちには耐えきれないほどの重荷であった。私たちは、何回か自害さえ試みたものの、毎回

失敗に終わった。神様には別のご計画があったのだと思う。苦しみの中で私たちは、フィリピンのマニラから放送されていた基督教のラジオ放送を聞き、主イエス・キリストを信じた。1975年になる前、アメリカやベトナムの宣教師たちが配っていた、イエス・キリストについての小冊子やパンフレットをいただいた。神様が少しずつ私たちをいやしてくださり、私たちの人生を完全に変えてくださった。私たちの人生において、最も暗い時期に救い主は羊飼いとなって、私たちを導いてくださったのだ。

私が20歳になったころ父はもう一度戦争にいかねばならなくなった。残念にも父は帰還することがなく、軍事作戦中に亡くなったという報告だけが届いた。私は父の姿を二度と見る事がなく、神様だけが唯一の父となった。家族の全員を失ったものの、神様が私と共におられることを知った。神様が私の助けとなられ、私の力、又助言者となってくださった。私は自分で聖書を読んでいて、読めば読むほどにキリストについて人々に伝えたくてきた。そしてついに私は、福音を大胆にも公に伝え始めた。2年と7か月の間、福音を伝えながらゆえに、私は二度も投獄された。しかし神様が殉教者たちの声を聞いてくださり、神様は私を1993年に牢獄から救出してくださったのだ。

牢獄で過ごす時間は、この世の地獄のようなものであった。ところが不思議にも私は神様を近くに感じ、神様が私を見放さないことを経験した。私は多くの迫害を受けてきたが、この日に至るまで揺るがされずに信仰に立てていることは、神様の恵みによる。ベトナムにおける宗教事情は、以前よりも改善していることを、神様に感謝をしたい。それでも信教の自由と言えるほどには、クリスチャンの立場は良くなっていない。私は妻と子どもたちと共に、神様に仕えていくために献身している。霊的に失われている人々、孤児、年を重ねている人々、町の通りに暮らしている貧しい人々。多くの人たちが助けと救いを必要としているので、働きは実にたくさんある。



2022年のクリスマス、私や他の牧師たちは迫害を受けた。それは政府の権威者によるものであって、私は2度の尋問を受けた。尋問の結果、私が当時牧会していたある地域教会を別の場所へ引っ越すようにと命令された。この時も、揺るがずに信仰に立ち続けられたことを神様に感謝する。神様はこのクリスマスを特別に祝福してくださった。南ベトナム地方とメコン・デルタ地方、ニーク・ルオング地方やカンボジアといった多くの場所を訪問して福音を伝え、貧しい人々にお米を届けることができたのだ。1,142人ものが主イエスを信じた。このうち250人は子どもである。ハレルヤ！

ベトナムの学校で福音を伝えることは、認められていない。しかし驚くべきことに、神様は学校で福音を伝えるためのドアを開いてくださったのだ。私たちは学校を訪問し、トラクトや冊子を配った。学校の生徒たちにプレゼントを持って行き、主イエスについてあかしすることができたのだ。神様はまた病院を訪問する別の機会をも与えてくださった。そこで私たちは、病人のいやしのために訪問し、祈った。人々は神様を本当に必要としている、と感じている。

アジア・アウトリーチによる支援に、心から感謝している。支援を受けて私たちは少数民族や貧しい人々のために食料を配ることができている。神様は少数民族に対する道を設けてくださって、みことばを伝えて祈り、必要な物資

を届けることができていた。これらの人々の多くは純粋で心が開かれているために、福音を聞きながら聞かされている。主が私を用いてくださって、チームを率いて宣教する機会を与えてくださったことに、とても感謝している。ベトナム人が神様の愛を、実際に経験できている。これも皆様が協力してくださっているからだ。主にある働きは、決して無駄にはならない。主が皆様に豊かに祝福して下さるよう！



「あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。また、あかりをつけて、それを柵の下に置く者はありません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします。このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」(マタイによる福音書5章14～16節)

## AOジャパン

### 神の恵みを見て喜ぶ

AOJ協議会 京都福音教会牧師 小平元昭



「彼はそこに着いて、神の恵みを見て喜び、主に対する信仰を揺るがない心で持ち続けるようにと、みんなの者を励ました。」(使徒11章23節)

昨年末に5年ぶりにミャンマーの教会を訪問しました。4年前にコロナ禍が始まり、翌年には軍部のクーデターによる内戦が起り、ずっと渡航できずにいたのですが、やっと道が開かれました。しかし、ヤンゴンの空港は閑散として、銃を持った兵士が目を見せ、街には検問所があり、軍隊と警察があちこちにいました。5年前とは大きな違いです。しかし、今回も聖書学校で講義をし、孤児院を訪問し、教会からの捧げ物を渡して、彼らを励ましてきました。

今回何としても聖書学校を訪問しなければならなかったのは、半年前についに5階建ての2棟の新校舎が完成したからです。工事着工から完成まで4年かかりました。そし

て、私たちの教会からも、多額の捧げ物を送り続けました。そのようなわけで、この建物を見た時、私は感激の涙をこらえることができず、建物に手を置き感謝の祈りを捧げた次第です。

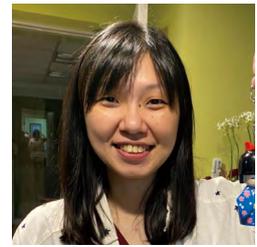
現在そこでは、70名ほどの神学生たちが学んでいます。コロナ禍に追い打ちをかけるように内戦が起り、経済は大打撃を受け、物の値段が跳ね上がり、人々は以前よりもっと貧しい生活をしています。しかし、そのような最悪の状況の中でも、新校舎が建てられて、学生たちは母国の救いのために立ち上がっています。それを見て、どんな厳しい状況下でも神の働きは進んで行くことを、深く教えられました。つまり、どのような方法であれ宣教の働きに参加するなら、私たちが現地に行けても行けなくても、そこに「神の恵みを見て喜ぶ」ことができるのです！

# 日本に派遣された宣教師——第9回

## 台湾から遣わされて

アリス・ウーさん (その1)

(WEC/ 基督教改革宗長老會松山教會派遣)



日本にリバイバルを送ろうとしていらっしゃる神様は、その証として、日本に対して新たな宣教師派遣の波を与えてくださっています。そのお証を通して、世界の国々から支えられていることを覚え、前進して行きましょう。今回は台湾出身でニュージーランドから来てくださったアリス・ウーさんにお話を伺いました。

私は台湾で生まれました。日本の植民地時代に育った母方の祖父母の元で3才まで育てられました。その後父方の祖父母の元に移りましたが、祖母は熱狂的な偶像礼拝者でした。私自身はこのような木で作った神々は本当の神だろうか？という疑問を持っていました。

小学校3年生の時に、福音が母を通して我が家に来ました。子どもの私たちも教会学校へ行きました。小学5年生の時、家族がみな神様の癒やしの奇蹟を経験しました。実は父がガンになり天に召されたのですが、その2週間前にイエス様が父を天に連れて行ってくださったのでした。父の死は大きな悲しみでしたが、この証は「イエス様こそが道であり、真理であり、いのちである」という確信をもたらしました。

それは、その後も、私たちの限られた人生の中で、どのように意義深く生きることができるかと考えさせられる大きな影響を与えました。自らの人生を神のみ手に委ねることが最善であると。

13才の時に、母と姉と私はニュージーランドに移住しました。その時、2、3人の日本人の友人がいました。仕事に就いてからも、日本人のシェフが「罪って何？人は、なぜ罪を犯すの？」と質問しました。その時、伝道というのは説教することだけではないのだ、と分かりました。

2008年、仕事を辞めて3か月の休暇を取り、日本に出かけました。そして「日本ユース宣教大会」に出席したのですが、出席者が百名以下であるのを見て驚きました。通訳者なしで最初の集会の説教を聴いたのですが、90%を理解することができ、主題聖句であるエレミヤ1章7節を用いてお語りくださいました。

「主は私に言われた。『まだ若い、と言うな。わたしがあなたを遣わすすべてのところへ行き、わたしがあなたに命じるすべてのことを語れ。』」

しかし、主からの召しに応答するのに更に5年かかりました。 ~次回につづく~

チャレンジ！バングラデシュ会堂建設プロジェクト

## バングラデシュに会堂を建設しよう

一つの会堂の建設費は300万円です。現地の教会の信徒は建設のために奉仕します。

教会・教団・個人でまとまったご献金（50万円以上の）をいただいた場合、会堂玄関に名前を刻んで現地の教会は名前を挙げてお祈りします。これは祈りによって神の国の相互関係を強めるプロジェクトです。

詳しい資料をご希望の方は、[aojoffice@gmail.com](mailto:aojoffice@gmail.com) まで、バングラデシュ会堂建設プロジェクトについてお問い合わせください。

### 編集後記

- 2024年の新しい年がはじまりました。日本は元日に能登地方で大きな地震に襲われました。能登半島地震で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。被災地の一刻も早い復興をお祈りしております。
- バングラデシュの会堂建設のためにご献金くださる方は、振替用紙にその旨お書き添えください。

- メールで配信の国別祈祷課題に従ってお祈りくださり感謝します。ご希望の方は、[aojoffice@gmail.com](mailto:aojoffice@gmail.com) までお申し込みください。

- アジア・アウトリーチ・ジャパンのウェブサイトが新しくなりました。<https://aojapan.org>

迫害されている  
クリスチャンの  
ために祈ろう！  
[hakugai.org](http://hakugai.org)